

< 都市住民等との交流を目的としている事例 >

棚田を利用した都市住民との交流の取組

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山口県宇部市水尻川 <small>うべしみずしりがわ</small>			
協定面積 12.9ha	田(100%) 水稲	畑	草地	採草放牧地
交付金額 271万円	個人配分			39%
	共同取組活動 (61%)			
	役員報酬			1%
	水路農道整備経費(資材費等)			20%
	水路・農道維持管理費(出役日当費)			34%
	共同利用施設整備経費			3%
	都市住民交流経費			2%
	事務費			1%
協定参加者	農業者 13人			

2. 取組に至る経緯

本集落は山の中腹に位置し、耕地の約7割はほ場整備実施済であるものの、残りの3割には狭小な棚田が残っており、この棚田の維持管理に苦慮していた。

また、水路・農道の共同部分については集落で清掃活動を実施していたが、農作業については集落営農組織も存在せず、自己完結型農業が行われていた。

そこで、棚田の景観を活かした農園整備を行うとともに、集落全体での意識高揚を図るため、中山間地域等直接支払制度に取り組むこととした。

3. 取組の内容

協定農用地内に地区住民以外の人を対象とした体験農園を開設し、農作業の体験、作物づくり等の場を提供している。

現在では、大学生、会社員、定年退職者、女性グループ、市外の家族等約60人が参加し、そばを中心に野菜、大豆、落花生、芋などを栽培するとともに、そば打ち、釜飯、シシ鍋、焼肉会等の交流イベントを開催している。



都市住民との交流
(落花生の収穫)



都市住民との交流
(そば打ち体験)

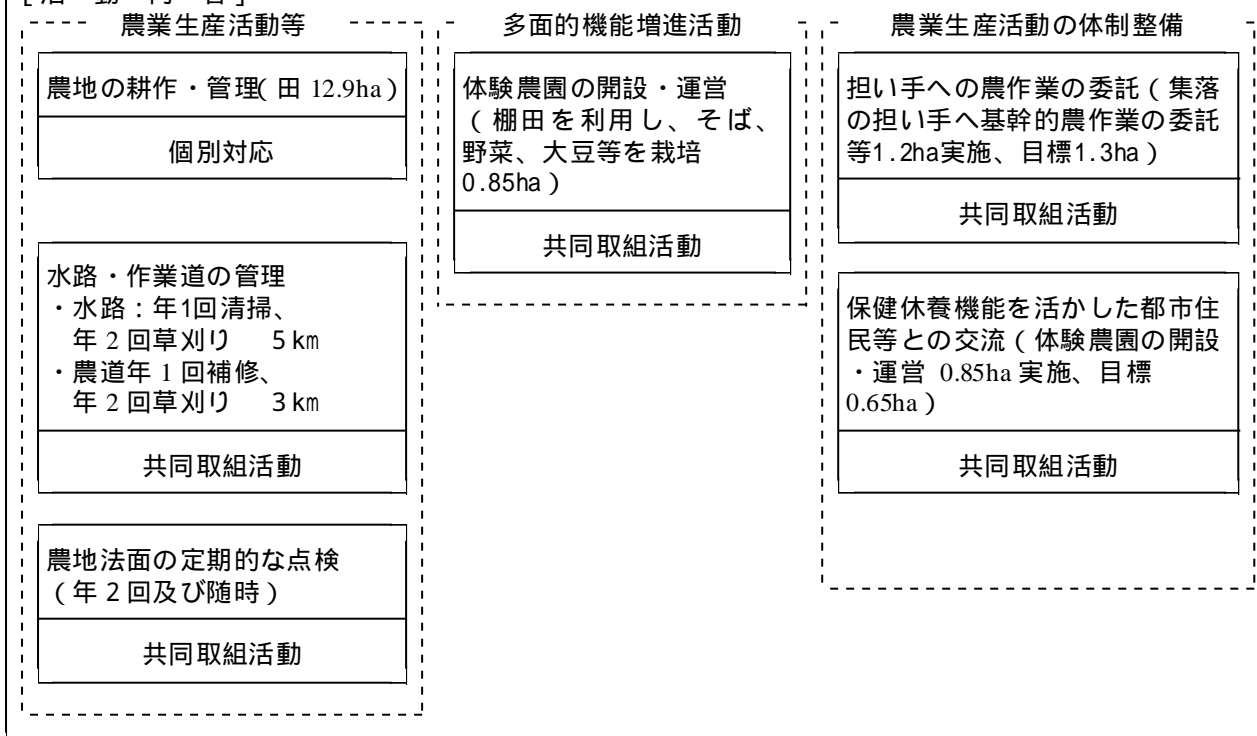
[集落の将来像]

核となる担い手に対し基幹的作業を委託することにより効率的な農作業を行うとともに、集落内で農業生産活動を継続できる体制を整備する。併せて、都市住民との交流活動を実施し、相互に活用を図る。

[将来像を実現するための活動目標]

従来は各農家で自己完結型農業を行ってきたが、農作業の効率化を図るべく、集落内の担い手に対し基幹的作業の委託を進める。また、協定農用地内に地区住民以外の人を対象とした体験農園を開設し、都市住民との交流を図る。

[活動内容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

第一期対策では、水路・農道等維持管理に係る共同作業の実施、景観作物の作付け等を推進し、農業生産活動を継続するための体制整備を行ってきた。その結果、以前に比べ集落内での話し合いが活発化するとともに、「集落の農地を守る」意識が高まった。

第二期対策では、棚田を活用した体験農園を開設・運営し、都市住民との交流を行っているが、今後も引き続き集落の活性化を図っていきたい。

[平成20年度までの主な成果]

鳥獣害防止柵の設置及び点検の実施による農作物被害の減少
 担い手農家への基幹的農作業の委託(目標 1.3ha、H19 実績 1.2ha)
 体験農園の開設・運営(目標 0.65ha、H19 実績 0.85ha)